

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600639		
法人名	有限会社 あすなろ		
事業所名	有限会社 あすなろ グループホーム まごころ	ユニット名	第一、第二
所在地	長崎県五島市富江町職人307-2		
自己評価作成日	平成26年5月26日	評価結果市町村受理日	平成26年7月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成26年6月9日	評価確定日	平成26年6月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の通り「おもいやりとまごころ」を持ってケアするように心がけている。又、ホームは自然に囲まれた静かな場所に立地し、時間に追われることなく、自由にのんびりと暮らすことが出来る。行事あるごとに、利用者や家族、地域の皆様の協力を得る事が出来、喜んで頂けている。介護の面では、家族からの要望があれば、施設で出来ることは全力で行い、現に終末のケアも出来る範囲で行ってきた。これからも、利用者や家族、地域の方と一緒にしてお互い助け合って行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームまごころ”では、ゆっくりとした時間が流れている。ご利用者個々の生活歴を把握し、特技の裁縫などをして頂いている。“日めくり”をめくる事が役割になっている方もおられ、その“日めくり”で、お孫さんに折り紙を折ってあげている。ご利用者同士の助け合いも多く、不安になっている方がいると、優しい声かけをして下さっている。日々の食事も大切にされており、梅干しやラッキョウ、切干し大根の他、ポン酢やドレッシングも手作りされており、25年度は“そうめん流し”も行われ、楽しいひと時を過ごされた。26年度は看護師が勤務する事になり、医療面の知識を全職員が勉強し、日々の介護に活かしていきたいと考えている。今後も、ご利用者一人ひとりと関わる時間を増やし、1日1回は、「ありがとう」とご本人に伝えられるお手伝いをして頂き、ご利用者の自信に繋げていきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の下、地域と疎遠にならず、これまでと変わらない生活を送れるよう、支援している	「思いやりの心でまごころの介護を」という理念のもと、ご利用者の希望や不安の把握に努めている。優しい職員ばかりで、「利用者第一」の視点で日々の支援に努めている。新体制に伴い、再度、ケアの原点に立ち返り、“その人らしく生きて行ける”支援の在り方を深めていく予定にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々には、普段から気軽に声をかけ、敬老会等の行事に招待したり、地域の一員として積極的に交流を図っている	近隣の方から野菜を頂く事も多い。ホームの敬老会には、100人を超える方が来て下さり、ボランティアの踊りや職員の劇や踊りも好評であった。富江神社祭りの神輿訪問も恒例で、皆さんも楽しみに待っておられる。クリスマス会では保育園児(5歳)が“岸壁の母”を踊って下さり、涙ぐまれる方も多かつ	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民や入居者を交え、散歩や施設前のベンチで会話したりホームに招く事によって、認知症への理解を深めて頂くよう、努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場では、家族、役所、地域の方々と施設での取り組みの状況を伝え、情報交換も出来る為、今後も継続していきたい	日々の取り組みを報告しながら、参加者の方と意見交換をしている。会議の時に、参加者の方も一緒に避難訓練を行う事ができた。家族の参加も多く、外部評価(自己評価)結果を報告した時も、「本人のできる事を手伝わせて欲しい」などの意見を頂いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所へ積極的に足を運び、事業所の実績を伝え、情報収集もしている。又、役所主催の研修等には積極的に参加している	ホーム便りを市役所に持参する時などに、ホームの状況を報告している。富江支所の課長は、毎回、運営推進会議に出席して下さい、「法改正の時など、わからない時はいつでも説明に伺います」と言って下さっている。防災訓練の時も、「出火場所を先に言うように」など、アドバイスを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束禁止マニュアル」を全職員が理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関、居室の施錠はせず、網戸にして開放している	ご利用者個々の行動に目配りを続けている。ご利用者は穏やかに過ごされており、自由にホームの裏庭などに出られ、季節の花を楽しまれている。職員と一緒に散歩し、気分転換をされており、編み物や食材の下ごしらえなど、役割を担って頂いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束とは何か、と全職員が理解し、身体拘束廃止に関する外部研修会にも、積極的に参加している		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に権利擁護を受けている方がいるので、全職員理解している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を渡すとき、重要なところは線を引いたり、繰り返し説明し理解してもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を玄関に設置。家族には面会時や、家庭訪問時などに要望を伺っている。又、面会が少ない家族には、電話や文書で連絡を取り合い、情報交換を得ている	面会時や電話などで家族と情報交換している。毎月、事務長等が自宅訪問し、家族から直接意見を伺っている。家族の面会時は、昼食やおやつなどを一緒に食べてもらい、家族の絆を大切にしている。「できる事はさせてほしい」と言う家族の思いを理解し、日々の支援に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や朝のショートミーティング時に意見を出し合う事がある。又、申し送り帳も活用している	全体ミーティングやユニット毎の会議をしている。職員は、ご利用者が元気に笑顔で過ごし、最期まで「ここで良かった」と思ってもらえるように、日々、意見やアイデアを出し合っている。シャワーが怖い方にシャワーハットの利用を提案したり、共有空間や各居室の環境整備のアイデアも多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に職員とコミュニケーションを図り、各自が向上心を持って働けるような、環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の計画を立て、積極的に参加し、スキルアップに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	食事会や敬老会、花見などの交流。他施設へ訪問し、勉強会に参加している		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の言葉、行動を観察し、不安感がないか、同じ目線で話を聞き、見極めるよう努めて、その方の側に寄り添い、スキンシップを心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の気持ち、要望を十分に理解した上で、事業者として、出来ること、出来ないことを説明し、話し合うことで信頼性を得る努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞き、十分理解して必要支援を見極める努力をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者と、調理や洗濯たみなどの共同作業の中から、職員が教えてもらって、学ぶことがあり、また、手助けをすることで関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来た時は、食事、おやつと一緒に食べてもらって、家族の絆を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院、理美容、洋品店など入居者本人の馴染みの付き合いを大切にしている	隣の宅老所に知人の方がおられ、ホームで一緒に過ごされている。知り合いの方が遊びに来られたり、馴染みの按摩マッサージ師を呼ばれている方もおられる。職員と一緒に墓参りに行かれたり、「自宅に帰りたい」という事で、家族と毎日自宅に帰られ、カラオケを楽しまれている方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	不安になっている方がいると、優しい声をかけてあげたり、髪をとく、椅子をひいてくれたりと日々の生活の中で支えあっている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に見舞いに行ったり、他の施設に入所された方には、面会に行ったり、亡くなられた際には葬儀に参列したり、弔電を打っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通じて思いをくみ取る努力をし、本人の意向を優先的に考えている。話を聞いて解決困難な場合はそのままにせず、入居者本位に検討している	ケアマネ(看護師)の方が中心になり、ご本人の思いをじっくり聞く機会が作られている。ケアマネの方が持参した紙風船やお手玉を楽しまれ、昔の歌と一緒に唄う事で、自然と昔の会話を引き出す事ができている。趣味なども伺い、新聞作りや雑巾を縫ってもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	看護サマリーや家族からの情報で、これまでの生活の経過を把握している。使い慣れた家具や物品、家族の写真等を持ち込んだり、変わらぬ生活が出来るよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルを参考にすると、入居者の心身の状態を把握し、一人ひとりの一日の流れを全職員が把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	来所時、電話連絡により家族の意向、入居者との会話の中で希望や思いを聞き取り、ケアプラン作成に生かしている	家族の訪問時や面会時、運営推進会議などに希望や要望を伺っている。ケアマネ(看護師)が計画の原案を作成し、全職員で検討している。ご利用者が楽しみにされている散歩やドライブ、体操等も盛り込まれている。	今後も、ご利用者と過ごす時間を増やすと共に、看護師が講師になり、コミュニケーションや医療面の勉強を行う予定である。ご本人の真の能力を把握し、座位や移動などの自立支援に取り組み、楽しみも増やしていきたいと考えている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の気付きや変化等は、個人記録、職員間の申し送り帳を活用し、全職員で情報の共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、その時の入居者の心身の状態や希望に応じて対応している		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事以外にも、地域の方々、地元の警察官、民生委員の方が訪問してくださり、又、年2回の防災訓練実施時には、地元の消防署に協力依頼している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関を選択している。定期受診には職員が同行し、状態の変化等が見られる場合は、家族へ連絡し、家族も一緒に主治医からの説明を受けるようにしている	24年4月から、ふれあい診療所が協力医療機関になっている。気軽に相談できる先生で、毎月の往診も受けている。通院介助は看護師と介護職が行い、アドバイスを頂いており、受診内容は家族と共有できている。ホームに看護師が勤務されており、今後も全職員で勉強をしていく予定である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関主催の勉強会へ参加した時や受診時に相談したり、往診時に診療所に相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づ	入院時、施設側からアセスメントを渡し、退院時には、主治医から看護サマリーを頂き、口答で説明を受けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、ターミナルケアを経験してきたので、家族から要望や主治医の意見を取り入れて、全職員でケア出来るように努めている	「最後はホームで」という方が増えている。看取りを希望される場合は、事業所が医療機関ではない事を理解して頂いている。ご利用者の体調変化に応じて、家族と主治医を交えて話し合い、家族への協力依頼も行っている。25年度も看取り支援が行われ、職員全員で誠心誠意のケアが行われた。26年度から看護師が勤務し、職員の安心になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	パンフレットを展示したり、ミーティング時に勉強したり、時には直接主治医に聞いたりすることも		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防総合訓練を年2回と実践訓練を実施している。全職員が知識を身に付け、地域との協力体制も出来ている	スプリンクラーを設置している。掃き出し窓でもあり、避難時は窓から外に出る事ができる。年に2回（夜間想定）、消防署と防災設備業者、宅老所などと合同で訓練している。町内会長と消防団員に協力依頼を行い、災害時は自動火災通報装置で連絡されるシステムになっている。災害に備え、水や食料、非常持ち出しバック、緊急時連絡先一覧表等を準備している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	氏名は姓で呼び、居室へ入際にはノックするなどプライバシーに気をつけている	優しい職員が勤務しており、理念の通り“まごころ”を持ったケアが行われている。職員の休憩室には“非4原則(してはいけない事)”を掲げており、職員が業務に入る前に確認している。地域の方々と交流する機会も多く、職員は、個人情報の漏洩には細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で本人の希望、思いを引き出すと共に自己決定出来る様に働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビを見たり、居室で休んだり、行きたい所への支援をして、一人ひとりのペースでゆったり生活している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々同じ洋服にならないよう、一緒に洋服を選んだり、整髪、その人らしいおしゃれが出来るように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞いたり、本人の味の嗜好も考慮したり、テーブル拭きや後片付けなど一緒にしている	3食とも職員が手作りしている。ご利用者も空豆やツツ、じゃがいも等の食材の皮剥きをして下さり、味見や片づけ等もして下さっている。梅干しやラッキョウ、切干大根の他、ドレッシングも手作りしている。25年度は初の「そうめん流し」も楽しまれ、今後は、誕生会の回数も増やしていく予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の量の把握。刻み食や流動食など、その人に合ったものを提供している。水分に関しては、定期的に補給したり、本人の要望があった時は提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後には必ず口腔ケアを実施し、週一で入れ歯の洗浄や歯ブラシセットの消毒を行っている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の活用にて、一人ひとりの排泄パターンを職員が理解し、自立に向けた支援をしている	ご本人の行動やしぐさから、早めのトイレ誘導をしている。布の下着を使用される方もおられるが、ご本人の不安が強く、紙パンツを使用している方もおられる。個別の誘導で安心パンツから布の下着に変更できた方もおられ、職員も嬉しく思っている。トイレにカーテンをかけ、羞恥心にも配慮している。	今後も、ケアマネ(看護師)からのアドバイスを受けながら、真の排泄の自立支援に取り組む予定にしている。パッドの必要性や使用枚数の妥当性を深く検討すると共に、“普通の生活”を改めて見つめ直していきたいと考えている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに飲用して頂き、料理の献立には根菜類、牛乳などを多く取り入れる工夫をしている。又、適度な運動も取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望、体調を伺い、入浴してもらう。一人ひとりがゆったりと入浴できるような会話を心掛けている	体調に応じて入浴方法を検討している。入浴を好まれない方には無理強いせず、声掛けの工夫も行われている。入浴時は「いい湯だな〜♪」等の歌も聞かれ、職員との会話も楽しんでいる。シャワー浴や清拭も行われており、今後は陰部清拭の機会も増やし、菖蒲湯等も楽しむ予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量の確保に努めている。本人の希望、体調を伺い休んでもらったり、居室の温度調整や冬場は湯たんぽを使用している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示を十分に理解し、薬の目的、作用、副作用を確認しながら服用の支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を全職員が把握し、趣味を生かし、縫い物や調理準備、掃除など自分の得意なことを楽しみながら行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気、身体状態を考慮し、可能な限り利用者本人の希望する場所へ散歩やドライブ、買い物等へ出掛ける支援をしている	ホーム周辺は車の往来も少ない。ご利用者はホームの庭に出て、ビワの熟れ具合や四季折々の花を眺めている。ホーム周辺を散歩する時は職員が同行し、地域の方と挨拶をされている。道端に咲く花を摘み、リビング等に飾られている。季節ごとの花見や海を見に出かけているが、回数が減っている。	事務長も、職員に外出支援を勧めており、職員も外出好きな方が多い。ホームの玄関前で日向ぼっこを増やす事から始め、短時間のドライブも増やしていきたいと考えている。座位が困難な方も、外気浴を含めて気分転換ができる方法を検討していく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の中には財布を所持している人もおり、買い物に出かけた際、必要に応じて職員が支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎをし、居室にて子機で会話して頂いている。また、携帯電話を所持している入居者もいる。手紙の読み書きが出来ない方は代読、代筆の支援もしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレもカーテンで目隠しし、プライバシーを損なわない配慮をしている。玄関、食堂には季節の花を飾るなどして、落ち着けるような空間作りを心がけ、心地よく過ごせるような工夫をしている	両ユニットでリビングの広さが異なる。1つのユニットは広さが限られているが、台所とリビングが隣接し、職員の姿が見えやすくなっている。廊下の幅も限られており、車いすの離合時は譲り合いが行われている。1つのユニットは天井も高く、広い空間であり、ソファも複数置かれている。移動時の安全に配慮しながら、思い思いの場所で過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室で過ごしたり、畳に横になったり、ソファで利用者同士、楽しく会話できるよう、居場所の工夫に努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切にしているものは身近に置いて、不安なく、家の中にいるような感覚で過ごして頂いている	入居時に馴染みの物を持ってきて頂いている。ダンスやテレビなども置かれ、ご利用者と相談しながら、ダンスやベッドの向きを決めている。家族の写真や裁縫箱などと共に、仏壇を置かれている方もおられる。座位などの能力も把握し、ご本人の自立した生活支援を続けていく予定である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日の生活の中で、身の回りの事など出来る限り自力で出来るよう支援し、利用者本人が悩んだり、手助けが必要な時はさりげなく支援する。建物内部各所には、自立が出来るように手すりを設置し、安全を重視した環境づくりを心がけている		